

フロア案内

救急・外来棟



入院・診療棟



※ 3～8階は入院病棟

アクセス



- 地下鉄
 - ・東山線・桜通線「今池」駅より徒歩約10分
 - ・東山線「池下」駅より徒歩約13分
- 市バス
 - ・地下鉄「千種」駅より「千種11」「千種13」
 - ・地下鉄「池下」駅より「池下11」「千種巡回」
 - ・地下鉄「今池」駅より「東巡回」「池下11」「千種11」「千種13」「千種巡回」
 - ・地下鉄「砂田橋」駅より「東巡回」「千種11」「東部医療センター」下車
 - ・地下鉄「大曾根」駅より「吹上11」「都通二丁目」下車



名古屋市立大学
医学部 附属

東部医療センター

理念：安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します



1957年に近代的総合病院をめざして現在地に移転改築し、名古屋市立東市民病院に改称しました。

以来、救急診療棟、心臓血管センター・脳血管センターを次々に開設し、地域の中核病院として救急医療をはじめ、心臓血管・脳血管疾患に対する高度・専門医療の分野で地域医療に貢献。

2011年5月名古屋市立東部医療センターに改称後、2013年には地域医療支援病院に承認されました。

2015年には救急・外来棟を、2020年には入院・診療棟を開棟。

2021年4月より名古屋市立大学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属東部医療センターと改称。

365日24時間患者さんを受け入れる「断らない救急」の実現と高度医療の更なる充実・強化を目指しています。

所在地：〒464-8547 名古屋市千種区若水一丁目2番23号

TEL：052-721-7171

HP：https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/toubu/



【基本情報】

地域医療支援病院、救命救急センター、地域中核災害拠点病院、
日本医療機能評価機構認定病院（「機能種別一般病院2」3rdG：Ver.2.0）、
第2種感染症指定医療機関
許可病床数 520 床（一般病床 510 床、感染症病床 10 床）

31の診療科目

内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
腎臓内科	脳神経内科	血液内科	内分泌・糖尿病内科
外科	呼吸器外科	消化器外科	心臓血管外科
脳神経外科	乳腺・内分泌外科	小児外科	整形外科
形成外科	精神科	小児科	皮膚科
泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科
リハビリテーション科	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科
救急科	麻酔科	歯科口腔外科	

12の特色あるセンター

心臓血管センター	脳血管センター	先進がん治療センター
内視鏡センター	リウマチ・骨粗鬆症センター	摂食嚥下センター
血液浄化療法センター	眼科・レーザー治療センター	集中治療センター
救命救急センター	感染症センター	高次ウイルス感染症センター

トピックス

救急医療

従来からの心臓・大動脈疾患、脳卒中、感染症の救急診療に加え、重症外傷・小児救急を受け入れる体制を確立しました。

感染症医療

2020年に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の患者を名古屋市内で初めて受け入れました。2021年3月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染症患者専用病床を新たに22床整備するなど第2種感染症指定医療機関として、名古屋市の感染症医療の中心的役割を果たしています。

がん診療機能の強化

各診療科において手術、化学療法、放射線治療等のがん専門治療を通じて地域医療への更なる貢献に取り組んでいます。2022年4月には各部門を統括する組織を立ち上げました。今後も包括かつ全人的な治療を実践し、更なるがん診療の機能強化や体制整備を進めていきます。



前進する東部医療センター

病院整備が完了し設備が充実するとともに、多職種等が連携してより良い医療を提供します



ヘルスケアアートで装飾された入院・診療棟



病床（4床室）



設備、スペースともに充実したICU・CCU



病棟でのミーティング



名古屋市立大学芸術工学部の学生がラッピングデザインした救急車

充実の医療機器

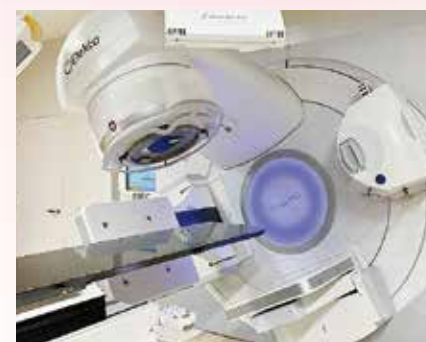
より良い診断、治療を提供するため、機器の充実にも力を入れています



手術支援システム「da Vinci Xi」
3D画像を見ながら手術ができ、手ぶれ補正機能により安全な手術が施行可能です。

ハイブリッド手術室

手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせることにより、大血管など高度な手術に対応します。



放射線治療装置

様々な位置照合システムを使用して、呼吸の動きを管理し、ミリ単位の精度で治療が可能です。



3T MRI装置

任意の断面像を高画質、短時間で撮像できます。造影剤を使用せず、血管を撮像することもでき、低侵襲な検査が可能です。



光干渉断層血管撮影

造影剤を用いずに、一度に広角眼底撮影を行い血管異常の検出や網膜断層解析ができます。